

# Happy Birthday

## 登場人物

1. 野原歩美 中学三年生
2. 速瀬あざみ 中学三年生
3. 星野かりん 中学三年生
4. 月岡くるみ 中学三年生
5. 江戸川小百合 中学三年生
6. 武藤 蘭<sup>らん</sup>・武藤 駿<sup>しゅん</sup> 中学二年生
7. 草壁 葵 中学三年生
8. 花山 咲 中学三年生
9. 陸上部員達
10. 三年一組の生徒達

## ◆第一区 謎

体育祭の定番である音楽が流れ、その音楽とともに幕が上がる。  
舞台には上手袖から下手袖まで平台が二列階段状に置かれている。  
それは七つ森中学校校庭の三年一組の応援席を表す。(この段は後のシーンで玉手川の土手にもなる)  
季節は秋。応援席には、三年一組の生徒達が、必死に応援しているある一瞬を切り取った姿で静止している。  
突然、歓声が上がり、その歓声と共に生徒達は一斉に動き始める。  
声をからして応援する生徒がいる。学級旗を必死に振って応援する生徒もいる。  
三年一組の生徒は全員赤い鉢巻をしている。

かりん(実況放送)「青速い、青がリードです。体育祭の最後を飾る三年生の選抜リレー。  
最後に笑うのはどのクラスだ」

生徒達 赤！

かりん(実況放送)「青がトップ、続いて赤。青と赤のデッドヒート。青リード。続いて赤。  
赤が迫ってきました。さあ、いよいよバトンが女子の最終ランナーに渡ります。青が、

トップで、アンカーにバトンを渡した」

生徒達 あざみ！

かりん(実況放送)「続いて赤。赤ががんばれ、がんばれ、がんばれ。赤が、赤が青を抜きました」

生徒達 ヨッシャー。

かりん(実況放送)「赤がトップです。赤がトップでアンカーの男子にバトンを渡した」

生徒達 隼人！

かりん(実況放送)「赤がトップ。青が迫ってきました。赤ががんばれ」

生徒達 がんばれ！

かりん(実況放送)「がんばれ」

生徒達 がんばれ！

かりん(実況放送)「がんばれ」

生徒達 がんばれ！

かりん(実況放送)「赤か、青か、赤か、青か。赤と青が並んでゴール」

生徒達が祈り出す。

かりん(実況放送)「勝ったのは、勝ったのは、(静寂) 赤です」

歓声が沸き起こる。

拳を突き上げる生徒がいる。抱き合って喜んでいる生徒もいる。

その歓声と盛り上がる音楽の中、暗転。

明かりがつく。

そこは玉手川の土手。

客席全体が玉手川という舞台設定。

先ほど行われていたのは体育祭の予行である。

七つ森中学校演劇部員の五人が上手から歩いてくる。

中心にいるのは速瀬あざみ(三年)。あざみと一緒にいるのは、星野かりん(三年)、月岡くるみ(三年)、江戸川小百合(三年)。

野原歩美(三年)は松葉杖(片松葉)を使ってみんなから少し遅れて歩いている。

あざみ、かりん、くるみ、小百合は三年一組に所属している。歩美は三年二組に所属している。

かりん さすがあざみ、最後の選抜リレーで勝つと盛り上がるよね。

くるみ なんてったって勝ち方がよかったよ。最後の最後での逆転勝利。

かりん あざみが葵を抜いた時、すごくすかつとしたんだけど。

くるみ わかる。

あざみ でも、さっきのは予行だぞ。

くるみ 本番もいただきだよ。

あざみ 選抜リレーで勝っても、優勝はできねーよ。(そう言いながら、水切りするために川に石を投げる)

みんな (石が水を切る数を数える)一・二。

あざみ (みんなから遅れる歩美を見て)ちよつとここの土手で休んでいこうぜ。

みんなが土手に座り込む。

小百合 (考え込んで)うちのクラス、優勝するの厳しいかな。

くるみ 悔しいけど、優勝は二組じゃない。

かりん でも、あれ反則だよ。

あざみ 反則？

かりん だって、葵が全員リレーで二回走るんだよ。

あざみ しかたねーじゃん。歩美、怪我して走れねーんだから。(歩美に)なっ。

歩美 うん。

かりん (まっ)歩美はしょうがないけど、咲はどうなの。体調不良とか言っちゃって。その代わりに陸上部のかんなが二回走るんだよ。あれ絶対おかしいよ。

くるみ (歩美に)ねっ、咲って本当にどっか悪いの？

歩美 (えっ)悪いんじゃない？

くるみ ほんとかな。咲、ずる休みって噂あるよ。

かりん そうそう、休めば速い人が代わりに出られるからって。

あざみ かりん、俺の親友の咲のこと悪く言うなよ。

かりん あー、前から不思議に思ってたんだけど、あざみどうして咲と毎朝一緒に学校に来てるの？

あざみ 咲と一緒にいると癒されるんだ。なんかあいつ見てると守ってやりたくなっちゃうんだよ。(そう言いながら、水切りするために川に石を投げる)

みんな 一・二・三。オー。

陸上部員達がかけ声をかけながら、ランニングをして上手から登場する。  
先頭を走るのは部長の草壁葵(三年)である。

部員1 声出していこう。

陸上部員 はい。

部員2 元気出していこう。

陸上部員 はい。

部員3 気合い入れていこう。

陸上部員 はい。

葵はかりんの前で走るのをやめ、かりんを睨みつける。

かりんは後ずさりする。

あざみがかりんの後ろに立って、葵を見る。

葵が、かけ声をかけて走り出す。

葵 ファイト！

みんな オー！

陸上部員達が下手に走っていく。

くるみ なんか今、葵、かりんのこと睨んでなかった。

小百合 あの实况放送のせいだよ。あざみが葵を追いかけてるとき、放送使って「がんばれ」ってあざみのこと応援したから。

かりん 去年、あの女王様と同じクラスで、女王様のわがままに苦しめられたこと思い出しちゃって。つい…

くるみ でも、葵、立場ないよね。だって陸上部のエースが演劇部のあざみに抜かれたんだから。

かりん あざみの走りにあこがれて、演劇部に新入部員入ってこないかな。

あざみ そりゃ無理だろ、陸上部じゃねーんだから。

歩美 で、みんな新入部員入れるいい方法考えてくれた？

あざみ 歩美はどうなんだ？

歩美 部活やめた二年生に声かけてる。演劇部に入らないかって。

あざみ で？

歩美 今のところ成果なし。

あざみ そっか。

歩美 新聞に、今どの学校でも部活がどんどんなくなってるって書いてあった。だから、私達の演劇部も、私達の引退とともに廃部になるのはしかたないのかな。

あざみ 歩美、淋しいこと言うなよ。今、世の中に必要なのは演劇だ。演劇は世の中を照らす光だ。演劇部をこの学校からなくしちゃだめだ！ なんてな。

かりん (手を挙げて)はい。

歩美 かりん、いいアイディアあるの？

かりん 昨日くるみと考えたんだ。くるみ、やるよ。

くるみ オッケー。さあかりん、新入部員をどうやって入れる。

かりん 幽霊部員になってくれる生徒を探す。

歩美 幽霊部員？

かりん 「(小百合に)幽霊部員になってくれませんか」  
「(あざみに)幽霊部員になってくれませんか」  
「(誰もいない空間に)幽霊部員になってくれませんか」  
「えっ？幽霊部員になってくれるの。ありがとう、花子」  
くるみ 「花子？」  
かりん 「くるみ、花子が見えないの？あっ、花子、どうする気？」

花子がかりんに乗り移る。

かりん[花子]「私は花子。よろしくね」  
くるみ 「かりん、どうしたの？」  
かりん[花子]「私、かりんのからだを借りてるの。私は花子。トイレの花子よ」  
くるみ 「ほんものの幽霊部員の誕生だ」  
かりん[花子]「私と一緒に妹も演劇部に入部するわ」  
くるみ 「妹？」

花子の妹がかりんに乗り移る。

かりん[妹]「はじめまして」  
くるみ 「あなたは？」  
かりん[妹]「私はトイレの花子の妹、トイレのタラコよ」  
くるみ 「ありがとう、花子にタラコ。幽霊部員になってくれて」  
かりん こうして演劇部の廃部の危機は回避された。

あざみ で、だからどうなんだよ。

小百合 転入生を勧誘するってどうかな？実は何日か前に、弟のクラスに転入生が来たんだ。

歩美 えっ、そうなの？

あざみ 小百合の弟って何組だっけ。

小百合 二年三組。

あざみ 名前は？

小百合 江戸川誠。

あざみ あー、小百合の弟の名前じゃなくって、転入生の。

小百合 名前は武藤蘭。なんと部活はまだ決めてない。

あざみ 武藤蘭のこと、もっと詳しく知りてーな。

小百合 そうくると思って、私・江戸川小百合は先ほど二年三組の教室に転入生のことを

探りに行ったのであった。

あざみ で、その成果は？

小百合 残念ながら武藤蘭はすでに帰った後であった。

あざみ だめじゃん。

小百合 しかし、自称ミステリー小説オタクの私・江戸川小百合は武藤蘭の手がかりを見逃しはしなかった。

あざみ 手がかり？

小百合がカバンから一枚の紙を取り出す。

小百合 教卓の上にこれが置いてあったのだよ。(それをあざみに見せる)

あざみ 何だこれ？

小百合 武藤蘭の自己紹介カード。

あざみ 小百合まずいんじゃないか、これ持ってきてちゃ。

小百合 大丈夫。明日の朝、誰にも気づかれずに教卓の上に戻しておく。

あざみ どれ。(そう言ってカードを手取る)名前・武藤蘭。チャームポイント・なし。  
好きな教科・なし。趣味・なし。特技・なし。今はまっていること・なし。何だこれ？

どれもこれも、なし、なし、なしじゃん。

かりん なんかネガティブちゃんって感じだね。

小百合 実は更なる情報を誠から得てるんだ。

かりん どんな情報？

小百合 武藤蘭は休み時間ずっと本を読んでいる。友だちと話をすることはほとんどない。  
今のところ、体育の授業に一度も出ないで見学してる。

かりん ますますネガティブちゃんだ。

小百合 で、更にネガティブなのは、

かりん まだ続きがあるんだ。

小百合 (自己紹介カードを受け取って)ここ見て。「何が好き」ってところの「好き」に  
二重線が引いてあって「嫌い」って直してあるのだよ。そしてそこに書かれている言  
葉は、な、な、なんと、

みんな …

小百合 タヌキ！

みんな タヌキ？

小百合 そう、タヌキなのだ。

あざみ でも、何でタヌキ？

小百合 それぞれ。数学でなくてなぜタヌキ。ニンジンでなくてなぜタヌキ。謎だ。

かりん (即興が始まる)なぜ武藤蘭はタヌキが嫌いなのか。

くるみ なぜ武藤蘭はタヌキが嫌いなのか。

かりん それは、母がタヌキだということを知ってしまったから。

くるみ 母がタヌキ！

かりん あれは、満月の夜のこと。大きな大きな月を見ていた母は、人間の姿でいることができなくなり、タヌキの正体を現し、踊り始めてしまった。そこを蘭に目撃されてしまったのだ。

くるみ 「ママ、ママはタヌキだったの」

かりん 「とうとうばれてしまったのね。ママがタヌキだってこと」

くるみ 「ママ！」

かりん 「もうママって呼ばなくていいわ、私はタヌキなんだから」

くるみ 「ねえ、ママ。パパも、パパもタヌキなの」

かりん 「いいえ、パパはタヌキじゃない。パパはイタチよ」

くるみ 「イタチ！」

かりん 「驚くのはこれから。実は、蘭、あなたもタヌキなの」

くるみ 「タヌキ！」

かりん というわけで、武藤蘭はタヌキが嫌いになった。

あざみ (そん)なわけねーだろ。

歩美 武藤蘭ってどんな女の子なのかな？

小百合 あー、みんな武藤蘭って女の子だと思ってるのかな？

歩美 (えっ)違うの？

小百合 武藤蘭は、男の子なのだ。

みんな 男！

歩美 あー、あの子かな。

あざみ 歩美、知ってんのか？

歩美 武藤蘭って体育の授業に一度も出ていないって言ってたよね。体育祭の全体練習の時、二年生で見学している中にいつも一人、本を読んでる男の子がいるんだ。

あざみ よし、アタック開始だ。

かりん まじ？

あざみ 歩美、君の出番だ。

歩美 私？

あざみ 歩美、演劇部の部長だろ。更に生徒会長でもある。

歩美 それってどう関係あるわけ？

あざみ 武藤蘭がこれだけネガティブなのは、きっと大きな悩みを抱えてるからに違いない。そのネガティブ君を救う、それが生徒会長の務めだ。そして、彼を演劇部に入れることで演劇部も救う。それは部長の務めだ。

かりん なんか説得力あるね。

歩美 どうやってアタックするの？

小百合 本がいいのではないかな。誠からの情報だと、彼、放課後この先の土手で一人本

を読んでいるらしい。

歩美 私、小百合みたいに本のこと詳しくないよ。それに彼がどんな本読んでもか知らないし。

小百合 それは私に任せなさい。明日までに調べて歩美に伝えるから。

あざみ 演劇部廃部の危機を救えるのは君だ。

歩美 まいったな。

あざみ (川辺を指して)あれ？あれ何だ？

歩美 タヌキ…じゃない。

みんな タヌキ！？

あざみ ナイスタイミングじゃん。

かりん こんなところにタヌキいるんだね。

くるみ 私、生まれて初めてタヌキ見た。かわいいー。

小百合 こんなかわいいタヌキをなぜ武藤蘭は嫌うのか？ その小さな謎には、きっと大きな秘密が隠されているのだ。なんか面白くなってきた。

演劇部員がタヌキを見つめている。

暗転

## ◆第二区 蘭

明かりがつく。

そこは体育祭予行の翌日・放課後の玉手川の土手。

土手に一人の少年が座って本を読んでいる。

少年の名前は武藤蘭(二年)。

その後ろに歩美が立っている。

歩美が蘭に近づく。

蘭が歩美を見る。

歩美 ここ、本読むのにいい場所だね。

蘭 …

歩美 ここって、私が本を読むお気に入りの場所だったんだ。

蘭 …

歩美 ねっ、何読んでもの？

蘭 (自分の本を歩美に見せる)

歩美 『人間失格』、太宰治か。偶然だね、私が読んでものも太宰治。ほら。(そう言って本を見せる)

蘭 『走れメロス』。



歩美 『走れメロス』好き？  
蘭 嫌いです。  
歩美 嫌いなんだ。  
蘭 はい。走るの嫌いなんだ。  
歩美 走るのが嫌いだから『走れメロス』も嫌いなの？  
蘭 それだけの理由じゃないですけど。好きなんですか？  
歩美 えっ、私、…うん、好きだよ。  
蘭 そうですよ。生徒会長って好きですよ『メロス』。  
歩美 私が生徒会長だって知ってるんだ。  
蘭 それは知ってますよ、なんせ生徒会長ですから。  
歩美 ねっ、どうして生徒会長だと『メロス』が好きってことになるの？  
蘭 「生徒会長からみなさんにお願ひがあります。みなさんメロスみたいに友情を大切にしましょう、友だちのこと信じましょう」って。  
歩美 あー、確かに生徒会長ってそういうイメージあるよね。でも、そんなふうに言われると、本音言いたくなっちゃうな。  
蘭 本音ですか？  
歩美 『メロス』の友情って、なんかきれいすぎて嘘くさい。  
蘭 …それ、みんなの前で言えますか？  
歩美 言えないね。  
蘭 でもいいんじゃないですか、そんな生徒会長がいても。  
歩美 名前、聞いてもいい。  
蘭 武藤蘭です。九月に転校してきました。  
歩美 武藤君、名前がランなのに走るの嫌いなんだ。  
蘭 走る Run じゃないんで。  
歩美 ランってどう書くの？  
蘭 花の蘭です。  
歩美 花、好き？  
蘭 嫌いです。  
歩美 花も嫌いなんだ。  
蘭 …花、好きなんですか？  
歩美 大好き。この川沿いの道って最高。秋の花でいっぱいだから。

蘭が立ち上がって花を指さしていく。

蘭 これは？  
歩美 アキノノゲシ。  
蘭 これは？  
歩美 イヌタデ、別名アカマンマ。

蘭　これは？  
歩美　キンエノコロ。キンエノコロって一見地味だけど、夕日を浴びると黄金色に輝くの。  
蘭　あっ、これはわかります。ススキですね。  
歩美　それススキに似てるけど、ススキじゃないんだ。それはオギ。ススキはあそこ。あれがススキ。よく見ると色も形も違うでしょ。  
蘭　(しばらく眺めて)よくわかりません。それじゃ最後にこれは？  
歩美　(笑う)まだ咲いてるんだ。この花、夏の初めからずっと咲いてるんだよ。  
蘭　何て名前なんですか？  
歩美　ヘクソカズラ。  
蘭　ヘクソ？  
歩美　葉っぱちぎって臭い嗅ぐとわかるよ、どうしてそんな名前だか。  
蘭　(やってみて)うっ。(そう言って葉を投げ捨てる)  
歩美　花言葉は「人嫌い」。  
蘭　人嫌いか。この花、僕に似てますね。  
歩美　人も嫌い？  
蘭　(うなずいて)嫌いです。

陸上部員達が、かけ声をかけてランニングをして、二人の後ろを通り過ぎていく。

歩美　タヌキって好き？  
蘭　突然どうしたんですか？  
歩美　私ね、小さいときタヌキになりたかったんだ。  
蘭　タヌキに？  
歩美　タヌキみたいに化けられたらいいなって思って。だから演劇部に入ったのかな。劇の中でいろんな人に化けられるから。  
蘭　…  
歩美　もし化けることができたなら何に化ける？  
蘭　化けるのは嫌いです。  
歩美　化けるの嫌いって、何かに化けたことあるの？  
蘭　(えっ…)あるわけじゃないじゃないですか。先輩はどうなんですか？  
歩美　どうって？  
蘭　何に化けるんですか？  
歩美　…足の速い人。  
蘭　足の速い人に化けてどうするんですか？  
歩美　体育祭で活躍する。  
蘭　走るの苦手なんですか？  
歩美　全然だめ。  
蘭　走るの嫌いですか？

歩美 嫌いってレベルじゃないよ。大嫌い。  
蘭 だから体育祭の練習いつも見学してるんですか？  
歩美 …  
蘭 いつも見学してますよね。走るのが嫌いだから見学してるんですか？  
歩美 そんなことあるわけじゃない。私が見学してるのは、足を怪我しているから。  
一か月前に捻挫して、それがまだ治らなくて。武藤君は？  
蘭 …  
歩美 武藤君もいつも見学してるよね。  
蘭 走るの、嫌いなんです。  
歩美 嫌いだから見学してるの？  
蘭 はい。  
歩美 走るの苦手？  
蘭 まあ、そんなとこです。で、体育祭どうするんですか？  
歩美 (えっ)  
蘭 走らないんですか？  
歩美 足の怪我次第かな。武藤君は？  
蘭 僕は走りません。  
歩美 どうして？  
蘭 まっいいじゃないですか、僕のことなんかどうでも。  
歩美 …ねっ、演劇やってみない。  
蘭 突然どうしたんですか？  
歩美 私が入っている演劇部、今部員募集中なんだ。スポーツが好きじゃないんなら、どうかなって。  
蘭 …  
歩美 考えてみてよ。  
蘭 …わかりました、考えてみます。それじゃ、僕これで失礼します。

そう言って蘭は下手に歩いて帰る。  
しばらくして、あざみ、かりん、くるみ、小百合が土手の向こう側から、湧いてくるように登場する。

あざみ 歩美、いい感じで話してたじゃん。  
かりん なんか、お似合いのカップルって感じ。  
歩美 やめてよ。  
あざみ で、演劇部に入る可能性は？  
歩美 「考えてみます」って。  
あざみ 脈ありってことか。  
歩美 とりあえずそう言ってみただけかもね。

小百合 タヌキが嫌いなわけはわかった？

歩美 私ね、「小さいときタヌキになりたかった」って話してみたんだ。

かりん 歩美、タヌキになりたかったんだ。

歩美 そんなわけないじゃない。タヌキが嫌いなわけがわかるかなって、その場で思いついたんだけど。

小百合 で、反応は？

歩美 タヌキ嫌いって感じじゃなかった。

小百合 タヌキが嫌いって感じではない。なぜだ？

あざみ とにかく「考えてみます」って言うてるんだから、もう一度あいつにアタックするしかねーな。歩美。

歩美 また私？

あざみ 歩美、演劇部を廃部から救ってくれ。頼んだぞ。(そう言いながら、水切りするために川に石を投げる)

みんな 一・二・三。

小百合 そして、タヌキ嫌いの謎も解明するのだ。

暗転

### ◆第三区 雨

明かりがつくと、そこは体育祭の予行から二日後・放課後の玉手川の土手。

蘭がいつもの場所に座って本を読んでいる。

雨が降ってくる。

蘭は鞆から傘を取り出してさす。

雨が強くなってくる。

突然、蘭は傘を閉じて鞆の中にしまう。

しばらくして、上手から歩美が傘をさして歩いてくる。

歩美が蘭に気がつく。

歩美 武藤君。

蘭が歩美の声に振り返る。

歩美 どうしたの、こんな雨の中、傘もささないで。

蘭 傘持ってきてないんで。

歩美 朝の天気予報見なかったの。午後から雨になるって。

蘭 見ませんでした。

歩美 (傘をさしだして)ねっ、入らない。

蘭 えっ！

歩美 遠慮しないで。

蘭 でも…

歩美 ほら。

そう言って蘭を傘の中に入れる。

蘭 あっ、傘、僕が持ちます。

歩美 雨、好き？

蘭 嫌いです。

歩美 私は好きだな。(松葉杖で指して)見て、花に雨の滴がついてきらきら輝いて。雨が好きっていうより、雨の日の花が好きなのかな。

蘭が雨に濡れた花を見ている。

蘭 会長さん。

歩美 やめてよ、その呼び方。

蘭 何て呼んだらいいですか？

歩美 野原先輩とか歩美先輩とか。

蘭 それじゃ、野原先輩。

歩美 何？

蘭 花を好きになって何かいいことありましたか？

歩美 えー、そんなこと考えたことなかったな。好きになろうとして好きになったわけじゃないから。(二人が歩く)あっそうそう、花のおかげで走るのが楽しくなった。

蘭 あれ、走るの嫌いでしたよね。

歩美 短距離はね。でも長距離はちょっとだけ楽しく走れるようになったんだ。

蘭 長距離走るの得意なんですか？

歩美 得意じゃないよ。長距離も遅いんだけど、遅いから楽しめることもあってさ。

蘭 遅いから楽しめる？

歩美 走るの速いと、花なんか見てられないじゃない。でも、私くらい遅いと、花を見ながら走れるんだ。(松葉杖で花をさしながら)あっアキノノゲシが咲いてる、きれいな花。キンエノコロが夕日に黄金色に染まってる。風にススキの穂が波になって揺れている。まるで海みたい。なんてね。そしてこの花。(笑う)

歩美・蘭 ヘクソカズラ。

蘭 それは覚えました。ヘクソカズラも好きですか？

歩美 好きだよ。  
蘭 野原先輩は何でも好きになれるんですね。  
歩美 武藤君は何でも嫌いになっちゃうんだね。  
蘭 …  
歩美 私のことも嫌い？  
蘭 …  
歩美 ごめん、変なこと聞いちゃって。今の質問忘れて。

雨の音が響く。

歩美 あっそうそう、私、もう一つ走るのが楽しくなる方法見つけたんだ。  
蘭 どんな方法ですか？  
歩美 歌を歌いながら走るの。  
蘭 歌を歌うんですか？  
歩美 歌うっていても、声に出して歌うんじゃないくて、頭の中で響かせて、そのリズムに合わせて走るの。その歌、走るときの私のテーマソングにしてるんだ。  
蘭 テーマソングは何ですか？  
歩美 秘密。  
蘭 教えてください。  
歩美 やだ、絶対笑うから。  
蘭 笑いません。  
歩美 笑うって。  
蘭 お願いします。  
歩美 …『アンパンマンのテーマ』。  
蘭 (笑う)  
歩美 ほら笑った。  
蘭 ごめんなさい。まさか『アンパンマンのテーマ』が出てくるって思わなかったんで。  
歩美 …はじめて笑ったね。  
蘭 …  
歩美 演劇部のこと考えてくれた。  
蘭 考えるっていても、演劇部のこと全然知らないんで。  
歩美 まー演劇部だから、劇の練習をしてるんだけどね。

花井咲(三年)が上手から歩いてくる。

咲 歩美ちゃん。  
歩美 (振り向いて)咲ちゃん。  
咲 歩美ちゃん、ごめんね。

歩美 (えっ)どうしたの？

咲 体育祭、出ることになっちゃった。

歩美 (えっ！)

咲 私が体調悪いって嘘ついて体育祭の練習休んでいるの、パパとママにばれちゃって。パパとママ、学校に連絡しちゃって。それで、さっき近藤先生に呼ばれたの。私ね、「自分が出たらクラスに迷惑かけちゃうから出ません」って言ったんだけど、近藤先生に、「クラスの目標は絆なんだから、みんなで出なくちゃ意味がありません」って言われて。

歩美 葵には話したの？

咲 近藤先生が葵ちゃんのこと呼んでくれて、私が出ることになったって話してくれたの。

歩美 葵、何て言ってた？

咲 一緒にがんばろうって。

歩美 そうなんだ。

咲 私、ほんとに怖かったんだ。葵ちゃん、怒っちゃうんじゃないかって。でも、葵ちゃん優しかった。

歩美 そっか。よかったね。

咲 うん。歩美ちゃん、ごめんね、一緒に見学しようって約束してたのに。

歩美 いいの、いいの。私は足の怪我が治ってないんだし、咲ちゃんが体育祭に出られる方がいいんだから。

咲 ありがと。それじゃ。

歩美 うん、また明日。

咲が舞台中央で、舞台奥に向かって曲がり、更に下手に曲がって走って帰っていく。  
それを見ている歩美。

歩美 そっか、咲ちゃん、走るのか。

蘭 どうしたんですか？

歩美 ちょっと心配になっちゃって。

蘭 野原先輩のクラス、どんな感じなんですか？

歩美 体育祭の優勝目指してまとまってるよ。優勝候補のナンバーワンなんだ。

蘭 学級目標は「絆」なんですね。

歩美 あー、聞いてた。

蘭 みんな好きですよ、絆って。

歩美 そうだね。生徒会のスローガンでもあるし。

蘭 「絆を深めよう」

歩美 それぞれ、よく覚えてるね。

蘭 嫌いな言葉って、頭に残っちゃうんですよ。

歩美 そっか、絆も嫌いなんだ。でも、わかるかも。

蘭 えっ、わかっちゃうんですか？

歩美 ほんとには生徒会長の私がわかっちゃいけないんだよね。でも絆って言葉、けっこうプレッシャーに感じるときあって。

蘭 体育祭まで足が治らない方が、気が楽ってことがあります？

歩美 (えっ)

蘭 …

歩美 その答え、聞きたい？

蘭 …

歩美 聞かなくても、答えわかってるんでしょ？

歩美が松葉杖を放り出す。

歩美 ほんとには、足の怪我もう治ってるんだ。

雨の中を川に向かって駆けていく。

美 あーあ、言っちゃった。言っちゃったよ。

雨が強く降る。

雨の音が響く。

蘭が松葉杖を手に持って歩美に近づく。

歩美に松葉杖を渡す。

そして歩美を傘の中に入れる。

葵が上手から登場する。

葵 歩美。

歩美 (振り向く)

葵 (蘭を見て、歩美に)誰なの？

歩美 ちょっと前に転校してきた二年生の武藤君。

葵 歩美、後輩とつきあってんだ？

歩美 (あわてて)そんなわけじゃない。演劇部に入らないかって誘ってるだけだよ。

葵 あれ？(蘭に)どっかで会ったことあるよね？

蘭 (えっ)何かの間違いじゃないですか。僕みたいな顔、どこにでもありますから。

葵 …

蘭 野原先輩、僕、これで。

歩美 まだ雨降ってるよ。

蘭 大丈夫です。僕の家ここから近いんで。



蘭が下手に歩いて帰る。

歩美 葵、相談したいことあるんだけど。

葵 私もあるんだ。

歩美 (えっ)

葵 咲のことなんだけど。

歩美 咲ちゃん、走ることになったんだね。

葵 もう知ってるんだ。

歩美 さっき、咲ちゃんから聞いた。咲ちゃん、喜んでた。葵も喜んでくれたって。

葵 コンティィーが一緒だったから。

歩美 …

葵 喜ぶわけないじゃん。最悪だよ。

歩美 最悪？

葵 咲が走ったら、かんなが二回走れなくなるじゃん。全員リレーの順番明日までに作り直しだし。それで相談なんだけど、明日の放課後、でっかく「絆」って文字黒板に書いてくれないかな。

歩美 私が？

葵 体育祭見学するんだから、クラスのためにそれくらいやってくれてもいいよね。

歩美 …わかった。

葵 で、歩美の相談って何？

歩美 あー、いい。たいしたことじゃないから。

葵 そっか。(何か思い出して)あー、あいつとどこで会ったか思い出した。去年の駅伝大会だ。

歩美 駅伝？

葵 あいつ選手で出てたんだ。

歩美 それ記憶違いじゃない？

葵 いや、絶対あいつだ。全国大会常連の玉手川中でただ一人一年で駅伝メンバーに選ばれてるやつがいて…

歩美 それが武藤君なの？

葵 武藤、そうそう武藤っていう名前だった。あいつが走った玉手川中はぶっちぎりの優勝で県大会に進んだ。

歩美 …

葵 歩美、陸上部で誘っていいかな、あいつのこと。

歩美 えっ、それ困るよ。

葵 えっ何で？ 演劇部じゃもったいないじゃん。

歩美 もったいないってどういうこと？

葵 だから…

歩美 …

葵 まっ、今はあいつのことより体育祭が先か。それじゃ明日よろしくね。

歩美 (えっ)

葵 黒板にでっかく「絆」。

歩美 (あー)

葵はそう言って、下手に歩いて帰る。

葵の姿が見えなくなった後、歩美は傘を地面に置いて雨に打たれる。

雨が強く降る。

暗転

#### ◆第四区 新たな謎

明かりがつくと、そこは体育祭前日・放課後の玉手川の土手。

歩美が土手に座って川を見ている。

下校途中の演劇部員四人が上手から登場する。

かりん あゆみー。

歩美は気がつかない。

みんな あゆみー。

歩美が気がついて、振り向く。

かりん 歩美、どうしたの。考えごと？

歩美 武藤君、前の学校で駅伝の大会に出てたんだって。葵が覚えていた。

かりん マジ？ あのネガティブ君が？

歩美 そして、彼の学校はぶっちぎりの優勝で県大会に進んだって。

小百合 それって、彼が運動得意だってことだよ、特に長距離が。そっか、そういうことか。

あざみ 何がそういうことなんだよ。

小百合 タスキ！

あざみ タスキ？

小百合 そう、タスキだよ。武藤蘭が嫌いなのはタスキじゃない。タスキだ。

かりん でもタスキって書いてあったよ。小百合も見たじゃない。

小百合 自己紹介カードに書いてあった文字、カタカナだったよね。殴り書きで書いてあ

ったから、タヌキだって思い込んでいたけど。あれは実はタヌキであった。

かりん (空中で書いてみる)タヌキ、タヌキ。あー、確かに似てる。

小百合 駅伝っていえば、タヌキ。間違いない。

くるみ 小百合、やるね。

小百合 ミステリー小説オタクを馬鹿にはいけないよ。

かりん くるみ、駅伝のランナーが繋ぐのがタヌキじゃなくってタヌキだったらどうなるかな。(ここから即興が始まる)私は駅伝の監督だ。私は本番前、選手を集めて話をする。「みんなこのタヌキを見ろ。このタヌキには君達の汗と涙がしみこんでいる。どんなことがあってもこのタヌキを繋ぐんだ。このタヌキは君達の絆の証だ」

くるみ 絆の証がタヌキ。それいいね。

あざみ 絆っていえば、二組の黒板にでっかく「絆」って書いてあったな。

かりん あれ、絶対葵だよ。

くるみ やりそー。

歩美 …

くるみ そういえば、咲、体育祭に出ることになったってね。

かりん マジ？ それって一組にとってグッドニュースだね。

あざみ おっといけねー。俺、今日、咲と約束してたんだ。

かりん 咲と？

あざみ あー、俺先に帰る。じゃあな。

あざみが舞台奥に向かって帰り始める。

かりん あざみ、明日の体育祭頼んだよ。

あざみ 俺一人じゃどうにもならねーよ。

あざみが下手に曲がって、走って帰っていく。

かりん 歩美、明日の体育祭どうするの？

歩美 見学。残念だけど足治らなかった。

かりん そっか。

小百合 武藤蘭はどうするんだろう、明日の体育祭。

歩美 見学するって言ってた。

小百合 運動が得意なのになぜ見学？ 駅伝の選手だった彼がどうしてタヌキが嫌い？  
新たな謎だ。

歩美に「さよなら」のあいさつをして、歩美以外の演劇部員が舞台奥に向かって帰り始める。

更に途中で下手に曲がって帰っていく。

歩美はそれを見つめている。

暗転

## ◆第五区 駿

暗転の中、体育祭の定番である音楽が流れてくる。

その音楽に乗ってかりんによる実況放送が始まる。

実況放送の途中で舞台が明るくなり、応援する三年一組の生徒達が浮かび上がってくる。

かりん(実況放送)「青速い、青がリードです。体育祭の最後を飾る三年生の選抜リレー。

最後に笑うのはどのクラスだ」

生徒達 赤！

かりん(実況放送)「赤が、青を抜きました」

生徒達 あざみ！

かりん(実況放送)「赤がトップでアンカーの男子にバトンを渡した」

生徒達 隼人！

かりん(実況放送)「赤がトップ。青が迫ってきました。赤か、青か、赤か、青か。赤と青が並んでゴール。勝ったのは、勝ったのは、(静寂)赤です」

歓声が沸き起こる。

暗転

明かりがつくと、そこは体育祭当日・放課後の玉手川の土手。

演劇部員五人(あざみ、かりん、くるみ、小百合、歩美)がその土手を上手から歩いてくる。

かりん さすがあざみ、最後の選抜リレーで勝つと盛り上がるよね。

くるみ なんてったって勝ち方がよかったよ。最後の最後での逆転勝利。

かりん でも、優勝まで手に入っちゃうとは思わなかった。

くるみ 二組にとっては劇的な負け方だったよね。

かりん 最後の最後での一点差の逆転負け。

あざみ かりん、やめとけ。二組の歩美がいるんだから。

かりん あー歩美、ごめんねー。

くるみ 歩美、どんな感じだったの。あの子の学活。

歩美 クラスの空気すごーく重くて、息するのも苦しかった。葵は怒ってるし、咲ちゃん、真っ青になって震えてるし。

かりん 一組が優勝できたの、全員リレーで咲がバトン落としたおかげだからね。

あざみ それじゃ、咲のこと演劇部で元気づけてやろうぜ。

かりん えっ？ マジ？ あざみ、マジで言ってる？

あざみ だってこのままじゃ咲がかわいそうだろ。(そう言いながら、水切りするために川に石を投げる)

みんな 一・二・三・四、オー。

かりん (上手を見つめて)あざみ、咲だよ。

あざみ みんな、いいな。今日は咲の前でバトンの話は一切なし。

みんながうなずく。

上手から咲が登場する。

あざみ よっ、咲。(夕日を見て)見てみろよ。なんか今日の夕日いつもよりきれいじゃねーか。

くるみ (いかにも演技しているといった感じで)そうだね。

かりん (いかにも演技しているといった感じで)ほんと、とってもきれいだ。

咲 あざみちゃん。バトン落としちゃった。

あざみ (振り向く)

咲 私、バトン落としちゃった。

みんながあざみを見る。

咲 やっぱ走りなければよかった。

あざみ …

咲 私が走らなければ、二組が優勝できた。

あざみ 優勝できなかったのは咲のせいじゃねーよ。

咲 私のせいだよ。私が走らなければ代わりに陸上部のかんなちゃんが走れた。そうすれば二組が優勝できた。

そこに陸上部員がジョギングをしてくる。

先頭の葵が走るのをやめる。

葵 そっか、そういうことか。

あざみ そういうこと？

葵 忘れてたよ、あざみが咲と仲良しだったこと。

あざみ どういう意味だよ？

葵　　咲、私に言ったよな。あざみが体育祭に出ること喜んでくれたって。咲、お前も馬鹿だよな。あざみはおまえが体育祭に出ることで一組が優勝に近づくと喜んでたんだぞ。

あざみ　はっ？

葵　　咲、おまえはそのあざみの期待に応えて、見事バトンを落としたってわけだ。優勝はなくなる。クラスの絆も滅茶苦茶になる。

あざみ　絆なんかなかったんじゃないか。

葵　　はっ？

あざみ　バトンが落ちたくらいで壊れるのは絆じゃないよ。バトンが落ちても壊れねーのが絆だよ。

葵　　かっこつけんなよ。

あざみ　かっこつけてねーよ。

葵　　あざみ、本音で話せよ。あざみだって、本当は咲がバトン落とした時、「やった」って思っただろ。

あざみ　思ってたねーよ。

葵　　思ったよ。

あざみ　だから、

咲　　思っていないよ。

葵　　咲、お前に何がわかるんだよ。

咲　　わかるよ。あざみちゃんは思わないって。だってあざみちゃん、私が体育祭に出るって決めた日、雨がすごーく降ってたけど、ずっと私と一緒に走る練習してくれたんだよ。そして昨日はずっとバトンパスの練習もしてくれた。私が恥かかないように。だから、あざみちゃんは思わなかったよ、私がバトン落としても、「やった」なんて思わなかったよ。

咲が泣き出し、そのすすり泣きが響く。

葵　　おい、行くぞ。

陸上部員　はい。

陸上部員が走っていく。

かりん　あざみ、私、超スカッとしたんだけど。

あざみ　咲、もう泣くな。胸を張れよ。

咲が顔を上げる。

あざみ　咲、体育祭逃げずによく頑張ったな。帰るぞ。

咲 うん。  
あざみ 歩美、じゃあな。  
歩美 …

あざみ達は舞台奥に向かい、更に途中で下手に曲がって楽しそうに帰っていく。  
歩美が一人残る。  
歩美が松葉杖を投げ捨てる。  
歩美はしばらくの間、その場で立っている。  
武藤が下手から登場する。  
歩美と目が合うが、武藤はそのまま歩美の前を通り過ぎていく。

歩美 えっ、えっ？

武藤はそのまま歩いていく。

歩美 武藤君！

武藤が振り返る。

武藤 …僕のこと呼びました？  
歩美 ねっ、どうして私のこと無視するの？  
武藤 …どなたですか？  
歩美 えっ、まじで言ってる？  
武藤 ？  
歩美 冗談だよな。  
武藤 ？  
歩美 本当に私のことわからないの？  
武藤 誰なんですか？  
歩美 一昨日、雨の中、二人で帰ったよね？  
武藤 そうなんですか？  
歩美 そうなんですかって、覚えてないの？  
武藤 …  
歩美 何？ もしかして、記憶なくしたってこと？ それともあれ？ TVドラマでよくある二重人格ってやつ？  
武藤 蘭のこと知ってるんですね。  
歩美 だって、蘭って君でしょ？  
武藤 蘭は僕の兄です。  
歩美 兄？

武藤 僕は武藤蘭の弟の武藤 駿<sup>しゅん</sup>です。

歩美 弟？ ってことは君達…

駿 はい、蘭と僕は双子です。

歩美 ちょっと、ちょっと待って。なんか頭の中でいろんなことがぐるぐる回ってる。どうして、二人一緒に私達の学校に転校してこなかったの？

駿 いろいろあって。

歩美 いろいろって何？

駿 いろいろです。

歩美 …

駿 あの…

歩美 何？

駿 蘭は、今走っていますか？

歩美 走ってない。今日の体育祭も見学してた。

駿 そうですか。

歩美 蘭君って駅伝の選手だったんでしょ？

駿 それ、蘭が話したんですか。

歩美 うちの陸上部の部長が、蘭君のこと覚えてたの。駅伝の名門・玉手川中学校で一年で一人だけ選手に選ばれて…

駿 それは蘭じゃなくて僕です。

歩美 えっ？

駿 あの、蘭に伝えてくれませんか。

歩美 …

駿 お誕生日おめでとうって。蘭、明日が誕生日なんで。

歩美 それを言うために来たの？

駿 はい。それと、もう一つ。僕、新しい学校で陸上部に入ることに決めたんです。また走ることにしたんです。陸上部に入る前に蘭にそのこと伝えたくて。

歩美 自分で伝えなよ。

駿 蘭に会うの、怖くなっちゃって。

歩美 どうして？

駿 いろいろあって。

歩美 何で私が伝えなくちゃいけないの？

駿 雨の中、二人で帰ったんですよね。

歩美 えっ、なんか誤解してない…

駿 お願いします。それじゃ。

そう言って、駿は上手に走っていく。

歩美 ちょっと、ちょっと待ってよ。



歩美は周りを気にした後、松葉杖を拾い、走って駿を追いかける。  
暗転